

# 「平成 25 年度新入生の生活に関する調査」報告 ー入学後の学生生活の予定や不安、期待する学生支援に着目して

望月由起・北澤泰子

お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

## Report on “The research of the life of the new students of 2013” - Focusing on the plans and concerns of the students after entering university, and the support that they expect from the university -

Yuki MOCHIZUKI and Yasuko KITAZAWA

Ochanomizu University Student and Career Support Center

This paper reports the results of the research on the life of the new students of Ochanomizu University in 2013 and their guardians, focusing on their plans and concerns about campus life and expected support from the university, etc., in comparison with the results of a similar survey conducted in the previous year.

The main findings are below: 1) As in the previous year, many students are planning to commute to university from the Tokyo Metropolitan area, and over 80% of the students are paying a monthly rent of “50,000 to less than 100,000 yen” for their apartments. 2) As in the previous year, The items on which the students intend to place emphasis in their first year at university are study, exchange with friends and activities in clubs and circles, and their concerns are classes and credits, their career paths and future, and human relationships, while their guardians are concerned about their career paths and future, health and human relationships. 3) As in the previous year, both students and their guardians expect support especially for career paths after graduation. 4) In the previous year, it was suggested that the students did not necessarily wish to enter the dormitory for financial reasons. The relevance is not obvious this year. It is found that the students wish to enter the dormitory whose households have the lower annual income, and have difficulties in making a living after entering the university.

**keywords** : campus life, career support, scholarship, dormitory

### はじめに

お茶の水女子大学、学生・キャリア支援センター（学生生活支援部門）では、平成 23 年度、平成 24 年度に引き続き、平成 25 年度の学部新入生とその保護者を対象に、文部科学省特別経費プロジェクト「統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会の保証」の一環として、「新入生の生活に関する調査」を実施した。本調査は、大学生生活の基盤や大学へのニーズを明らかにすることによって、本学の学生・キャリア支援活動をより効果的に実行するための基礎資料として活用することを目的としたものである。

本稿では、本調査の結果について、前年度調査の結果との比較も行いながら、入学後の学生生活の予

定や不安、期待する学生支援に着目して報告する。本学が目指す統合型学生支援のあり方や方向性を検討する上での示唆を得るために、経済的・生活支援に対する希望については、家庭の経済状況とからめての分析も加えることとする。

### 調査の概要

#### ・調査目的：

平成 25 年度の本学（学部）入学予定者の実情をふまえ、有益な学生支援の検討および実施を行うための資料とすることを目的とする。

具体的には、下記 4 点を中心とする。

1. 新入生個々の大学教育や将来への多様なニーズを

把握し、適切な学生支援事業を入学時から行うために、新入生個々の情報を得る。

2. 新入生の標準的な学生生活の状況を把握する。

3. 新入生の家庭状況からその経済的基盤を推定することにより、お茶の水女子大学における学生支援事業を改善するための基礎資料とする。

4. 国立大学入学者の学生生活・家庭状況・進路状況などに関する調査研究を行うための基礎資料とする。

・調査時期：2013年3月

・調査方法：

郵送による送付・返送。一般入試合格者（および保護者）に対しては、他の入学手続関係書類に調査票および調査返送用封筒を同封し、他の書類とともに回答の返送を依頼した。その他の方法での合格者（および保護者）に対しては、別途、調査時期に、調査票および調査返送用封筒を送付し、返送を求めた。

・調査分析対象：

「新入生を対象とした調査（以降、新入生調査とする）」

平成25年度学部入学者482名。有効回答数407名（入学者のうち84.4%）。

「新入生の保護者を対象とした調査（以降、新入生保護者調査とする）」

平成25年度学部入学者の保護者482名。有効回答数400名（入学者の保護者のうち82.3%）。

いずれの調査も、返送者のうち分析許可を得ることができなかった者は分析対象から除いている。

・調査内容：

大学入学までの進路選択・決定、卒業後の進路志望、学生生活の経済的基盤、学生支援活動への期待（以上は新入生自身への調査）、家計支持者の職業、世帯年収、学歴、学生支援活動への期待（以上は新入生の保

護者への調査）など多岐にわたっている。

## 入学後の学生生活の予定

まず本学新入生の大学入学後の学生生活の予定について、「大学入学後の居住予定の都道府県」「大学入学後の住居の予定」「1か月の家賃の予算」「1か月の仕送り予定額」「大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動」「授業料の負担予定」の側面から、新入生調査に基づいて示していく。

### 大学入学後に居住予定の都道府県

Figure1は、大学入学後に居住予定の都道府県を尋ね、本学の所在地である「東京都」、隣接している「埼玉県」「千葉県」「神奈川県」、「その他の県」別に示した結果である。

全体でみると、「東京都」が63.1%と目立ち、「埼玉県（15.2%）」「神奈川県（9.1%）」「千葉県（8.6%）」と続いている。昨年度は学部による傾向の違いはみられなかったが（お茶の水女子大学2012,P20）、今年度は、他学部比べて、文教育学部では「東京都」が目立つ（理学部より+15.7ポイント、生活科学部より+11.5ポイント）。

本調査に回答した本学新入生のうち、「東京都」の高校出身者は21.5%に過ぎないことから（お茶の水女子大学2013,P6）、本学新入生は、親元を離れ、本学の所在地である「東京都」に居住する予定の者が多いものと思われる。これらの傾向は前年度調査でも同様に示されており（お茶の水女子大学2012,P20）、本学では学内におけるさまざまな支援のみならず、学外での生活等も視野に入れた支援が必要である。

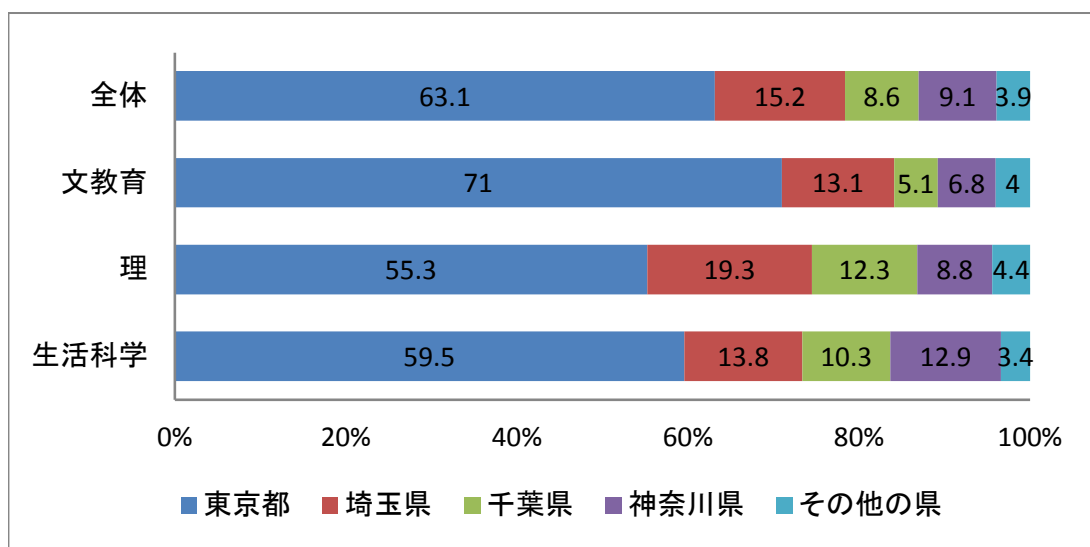


Figure1 大学入学後に居住予定の都道府県

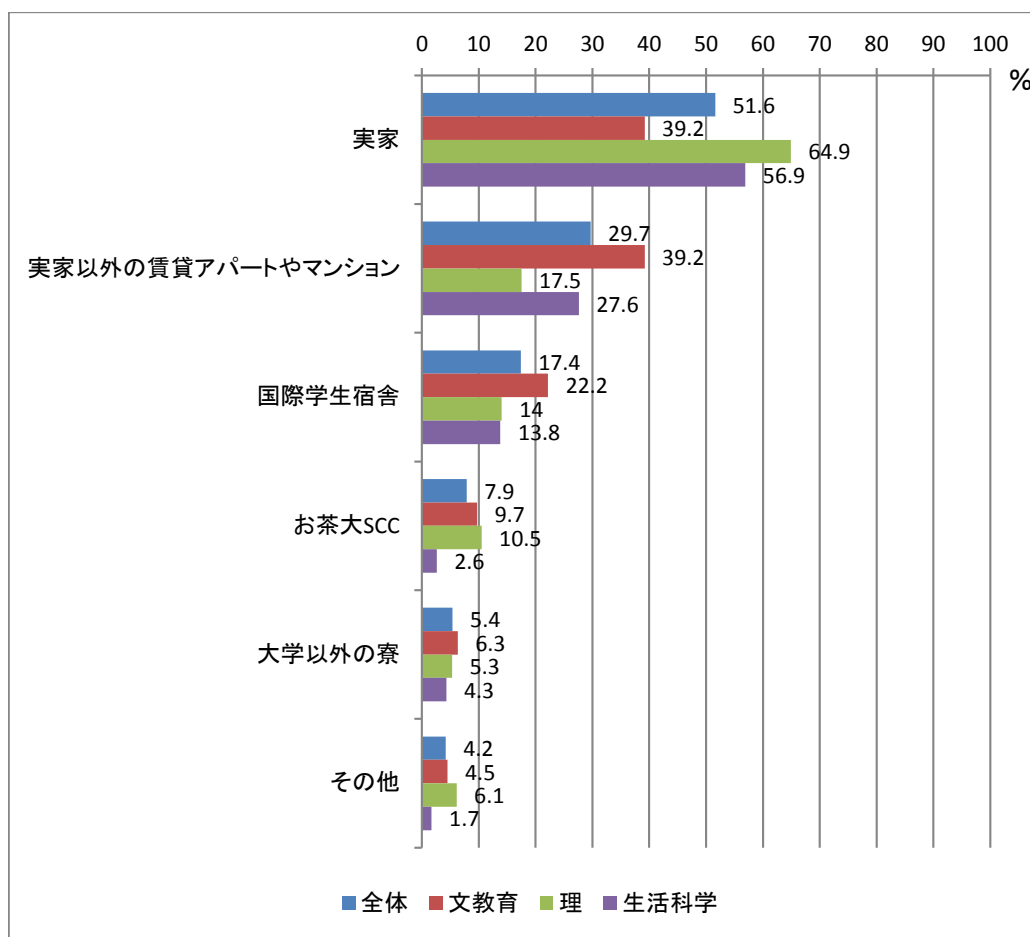


Figure2 大学入学後に予定している住居

特に文教育学部では、先に示したように「東京都」に居住予定の学生が多い一方、「東京都」や「埼玉・千葉・神奈川」以外の地域の高校出身者は 64.5% であり、他学部比べて目立つため（理学部より +26.4 ポイント、生活科学部より +16.3 ポイント）（お茶の水女子大学 2013,P6）、一層の支援が期待される。

#### 大学入学後の住居の予定

Figure2 は、大学入学後に予定している住居について、「実家」「実家以外の賃貸アパートやマンション」に加え、本学の学生寮である「国際学生宿舎」「お茶大 SCC」「大学以外の寮」「その他」の中から、複数回答可として尋ねた結果である。

全体でみると、「実家（51.6%）」が半数以上を占めており、次いで、「実家以外の賃貸アパートやマンション（29.7%）」、「国際学生宿舎（17.4%）」や「お茶大 SCC（7.9%）」といった学生寮が続いている。文教育学部では他学部比べて「実家（39.2%）」が明らかに低く、「実家以外の賃貸アパートやマンション（39.2%）」「国際学生宿舎（22.2%）」が高い傾向も示されている。これらの結果は、前年度調査と大きく変

わっていない（お茶の水女子大学 2012,P20-21）。

その一方で、「お茶大 SCC（9.8%）」は文教育学部よりも理学部の方がやや高い。この傾向は、前年度調査にはみられなかった結果である（お茶の水女子大学 2012,P20-21）。「お茶大 SCC」は大学に近い立地にあるとともに、教育寮として知名度の高い学生寮である。こうした特色が、入学者やその保護者にも影響を与えているものと思われる。

#### 1 か月の家賃（管理費込み）の予算

Figure3 は、1 か月の家賃（管理費込み）の予算（千円未満は四捨五入）について、「賃貸アパートやマンション」に居住予定の者に尋ねた結果である。

全体でみると、「5～7 万円台（51.2%）」が半数を超えもっとも多く、次いで、「8～9 万円台（26.4%）」が続いており、およそ 8 割の新入生は 5～9 万円を 1 か月の家賃として予定していることがわかる。前年度調査でもほぼ同様の状況であった（お茶の水女子大学 2012,P21-22）。

なお、全国大学生活協同組合連合会が 2011 年度に実施した「学生の消費生活に関する実態調査」によれ

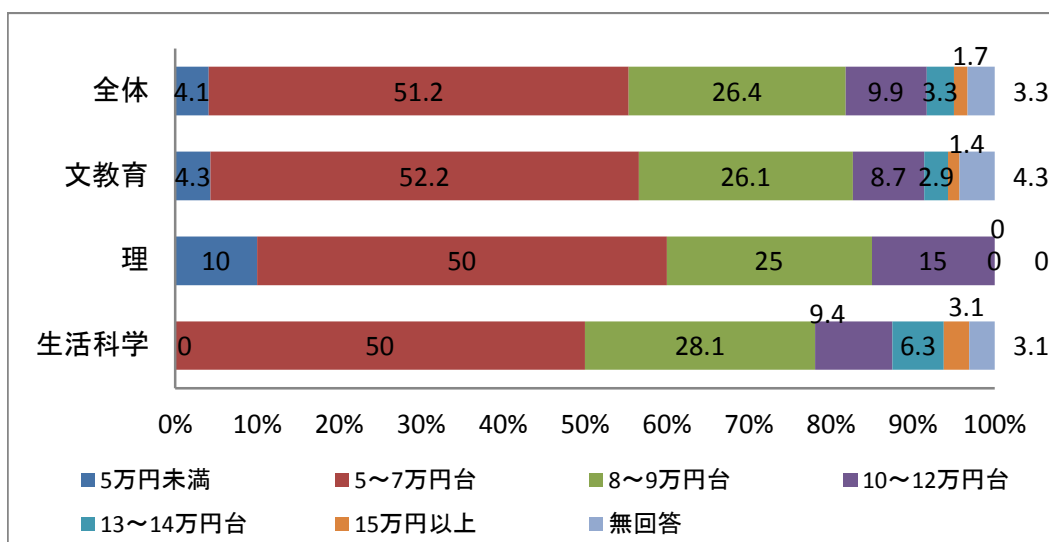


Figure3 1 か月の家賃（管理費込み）の予算

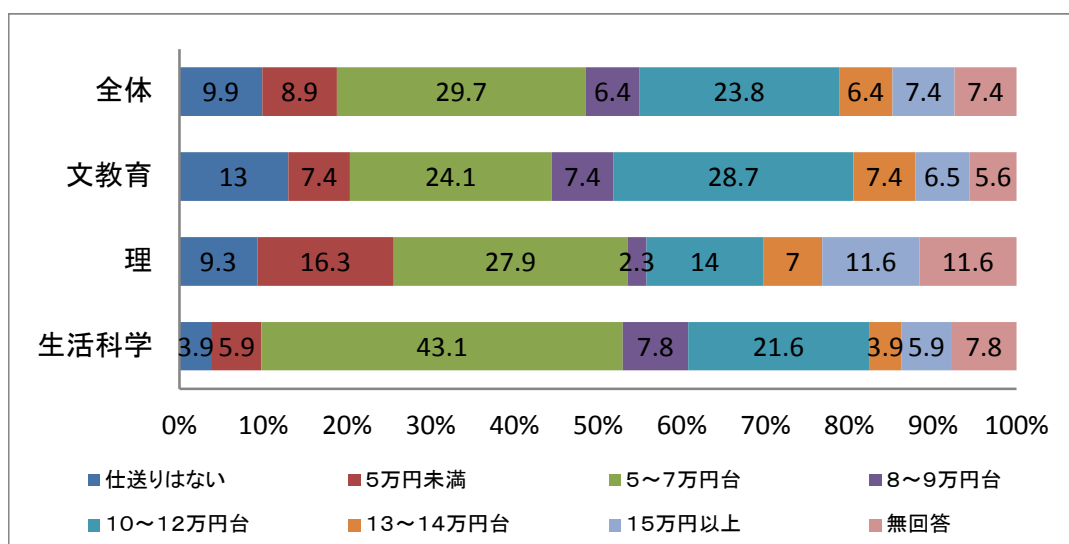


Figure4 1 か月あたりの仕送り予定額

ば（全国大学生生活協同組合連合会 2012,P13）、下宿生のうち、1都3県（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県）の1か月の住居費平均は60,730円であり、「賃貸アパートやマンション」に居住予定の本学新入生の家賃の予算と大きな隔たりはない。

#### 1 か月の仕送り予定額

Figure4は、1か月あたりの仕送り予定額（万円未満は四捨五入）について、「実家」以外に居住予定の者に尋ねた結果である。

全体でみると、「5～7万円台（29.7%）」がおよそ3割を占めもっとも多く、次いで、「10～12万円台（23.8%）」が続いている。この傾向は平成23年度調査の結果でも同様に示されているが（お茶の水女子大学 2011b,P22）、前年度調査では、「10～12万円

台（29.4%）」がもっとも多く、次いで、「5～7万円台（23.7%）」「15万円以上（13.9%）」が続いており、今年度の傾向はそれとは異なる結果であった（お茶の水女子大学 2012,P22）。

また、全体でみると「仕送りはない（9.9%）」「5万円未満（8.9%）」も1割程度ずつみられ、理学部では、「仕送りはない（9.3%）」「5万円未満（16.3%）」を合わせると1/4以上に及んでいる。

「学生の消費生活に関する実態調査」によれば（全国大学生生活協同組合連合会 2012,P8）、下宿生のうち、仕送り「10万円以上」は39.4%と、この10年ではほぼ半減している一方で、仕送り「0」の割合は10.1%と引き続き1割を超えており、5万円未満層も25.1%と1/4を超えている。本学でも、5万円未満層は増えており、奨学金制度や学生寮の整備といっ

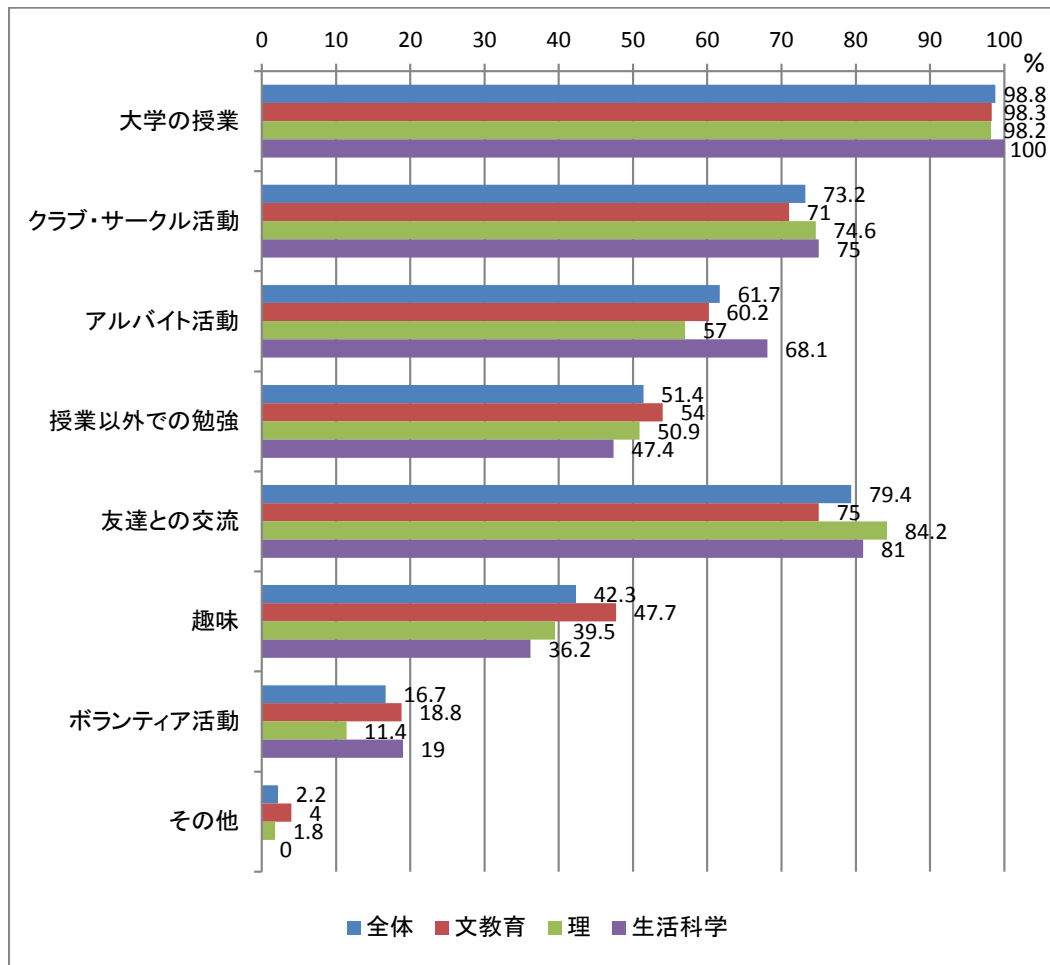


Figure5 大学に入学後、特にこの 1 年で頑張ろうと思う活動

た生活・経済的支援の充実は、従来にもまして、今後ますます求められていくものと思われる。

#### 大学に入学後、特にこの 1 年で頑張ろうと思う活動

Figure5 は、大学に入学後、特にこの 1 年で頑張ろうと思う活動について、複数回答可として尋ねた結果である。

「大学の授業」は全体の 98.8% の学生が回答しており、前年度調査同様、いずれの学部でも、大多数の新生が「大学の授業」を頑張ろうと思っていることが示されている（お茶の水女子大学 2012,P22-23）。他にも、前年度同様、「友達との交流（79.4%）」や「クラブ・サークル活動（73.2%）」はいずれの学部でも 7 割を超えている。

#### 授業料の負担予定

Figure6 は、授業料の負担予定について、「ほぼ全額を保護者が負担予定」「一部を本人が負担予定（奨学金等による負担含む）」「ほぼ全額を本人が負担予定

（奨学金等による負担含む）」の中から尋ねた結果である。

全体でみると、「ほぼ全額を保護者が負担予定（81.3%）」が全体の 8 割以上を占め、「ほぼ全額を本人が負担予定（奨学金等による負担含む）」は 2.0% に過ぎない結果となった。この傾向はいずれの学部でも同様にみられる。これらの結果は、前年度調査でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2012,P24-25）。

#### 入学後の学生生活への不安

では、本学の新生やその保護者は、大学入学後の学生生活に対してどのような不安を抱えているのだろうか。

Figure7 および Figure8 は、全国大学生活協同組合連合会が 2010 年に実施した「保護者に聞く新生調査」の調査項目を参考に、大学での学生生活が始まって心配なことについて、新生調査および新生保護

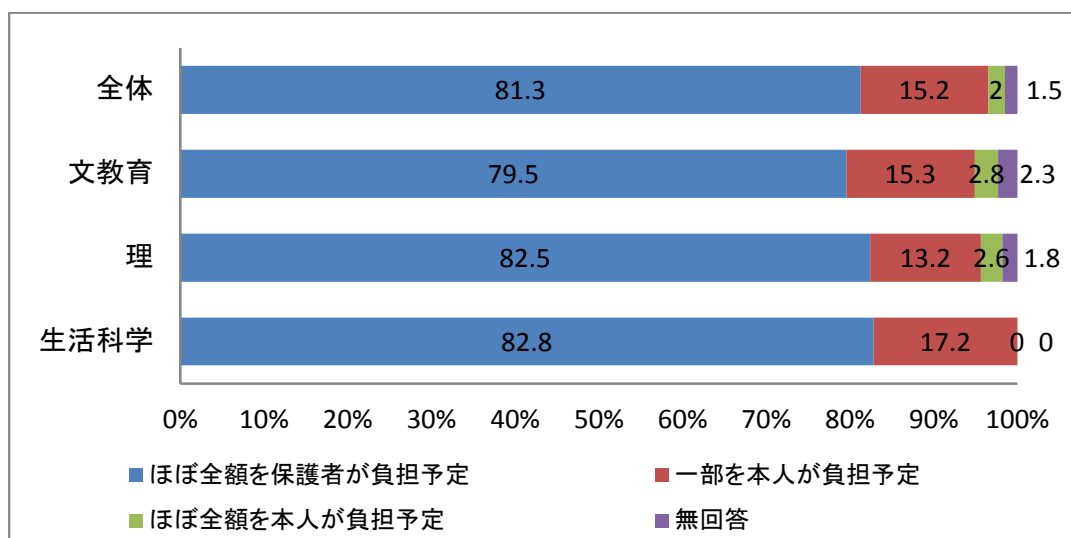


Figure6 授業料の負担予定

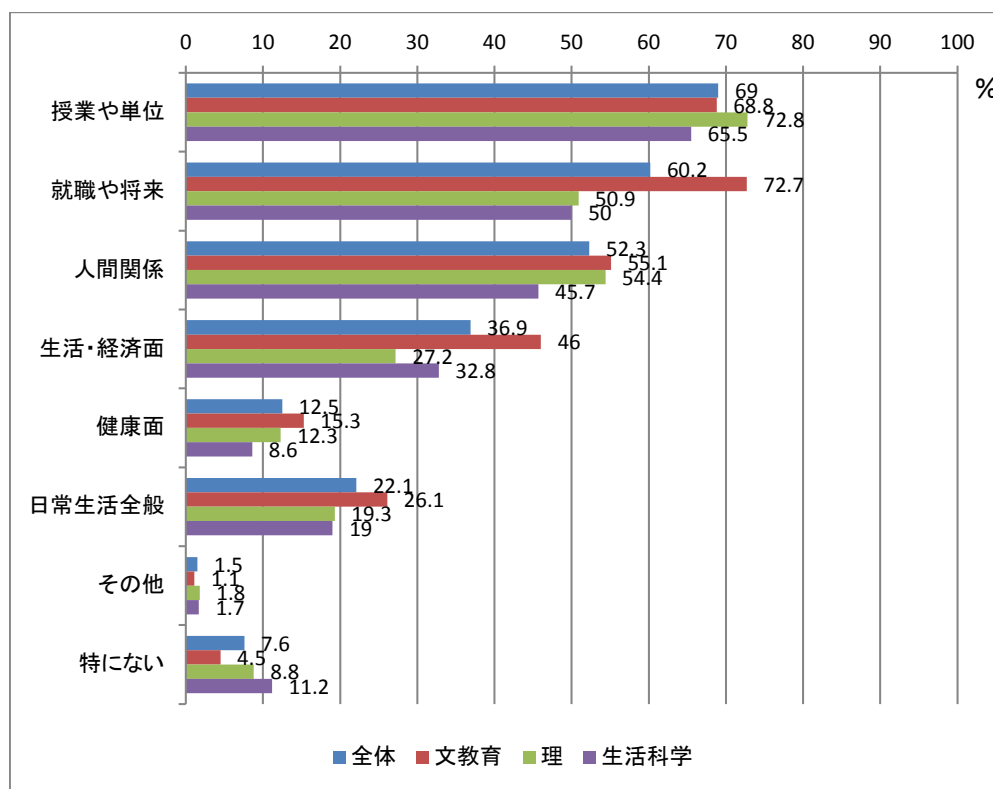


Figure7 新入生：大学生活が始まって心配なこと（複数回答可）

者調査において、複数回答可として尋ねたものである。

まずは、新入生調査に基づき、新入生自身の結果をみていく。

「特にない」は全体の7.6%に過ぎないことから、本学の新入生の多くは、大学生活に関して何らかの不安を抱えていることがうかがえる。

不安の中身に目を向けると、「授業や単位（69.0%）」「就職や将来（60.2%）」「人間関係（52.3%）」の順に

多くみられ、多くの学部で半数を超えている。これらの傾向は、前年度調査でも同様に示されている（お茶の水女子大学2012,P26-27）。

先に文教育学部では、親元を離れて生活する学生が他学部に比べて多いことを示したが、こうした影響からか、Figure7からは文教育学部の学生は「就職や将来（72.7%）」「生活・経済面（46.0%）」「日常生活全般（26.1%）」についての不安が他学部に比べて目立って高いことがわかる。



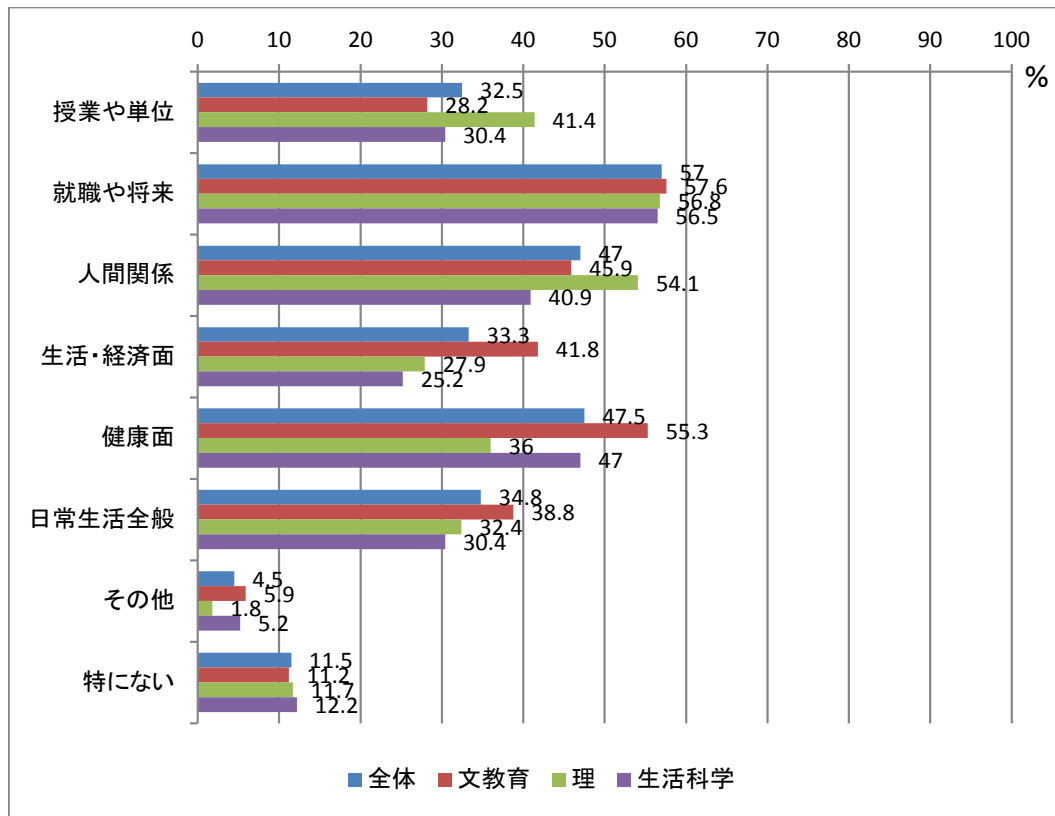


Figure8 保護者：大学生活が始まって心配なこと（複数回答可）

同様に、新入生保護者調査に基づき、保護者の結果をみていく。

全体でみると、「就職や将来（57.0%）」「健康面（47.5%）」「人間関係（47.0%）」の順に多い。この結果は前年度調査でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2012,P47）。

全国大学生生活協同組合連合会が実施した「保護者に聞く新入生調査」によれば、「就職や将来」や「生活・経済面」は年々比率が高まっており、「就職や将来」44.5%（2年間で11.3ポイント増）、「生活・経済面」26.4%（同2.3ポイント増）となっている（全国大学生生活協同組合連合会 2010,P10）。Figure8からは、本学新入生の保護者にも、「生活・経済面」もさることながら、「就職や将来」に不安を抱える保護者がいずれの学部でも多いことが示されている。

#### 期待する学生支援活動

上記のような大学生活の予定や不安をもつ本学の新入生や保護者は、大学に入学後、いかなる学生支援活動を大学に期待しているのだろうか。

Figure9 および Figure10 は、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」の調査項目を参考に、本学の学生支援活動に期待するものについて、新入生

調査および新入生保護者調査において、複数回答可として尋ねたものである。

まずは、新入生調査に基づき、新入生自身の結果をみていく。

全体でみると、「就職支援（75.4%）」がもっとも多くおよそ8割に達している。「進路相談（63.1%）」も「学習支援（68.1%）」に次いで多く6割を超えていることから、本学の新入生は、卒業後の進路に関する支援活動に期待していることがわかる。この傾向は前年度調査でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2012b,P28-29）。

また、今年度調査では、文教育学部が他学部に比べて「就職支援（81.3%）」「学習支援（72.2%）」「進路相談（66.5%）」のいずれにおいても高い結果も示されている。

同様に、新入生保護者調査に基づき、保護者の結果をみていく。

新入生自身の回答結果と同様、全体でみると、「就職支援（88.5%）」がもっとも多くおよそ9割に達し、それに次ぐ「進路相談（76.3%）」も7割を超えていることから、新入生自身同様、保護者も卒業後の進路に関する支援活動を特に期待する者が多いことがわかる。この傾向は前年度調査でも同様に示されている

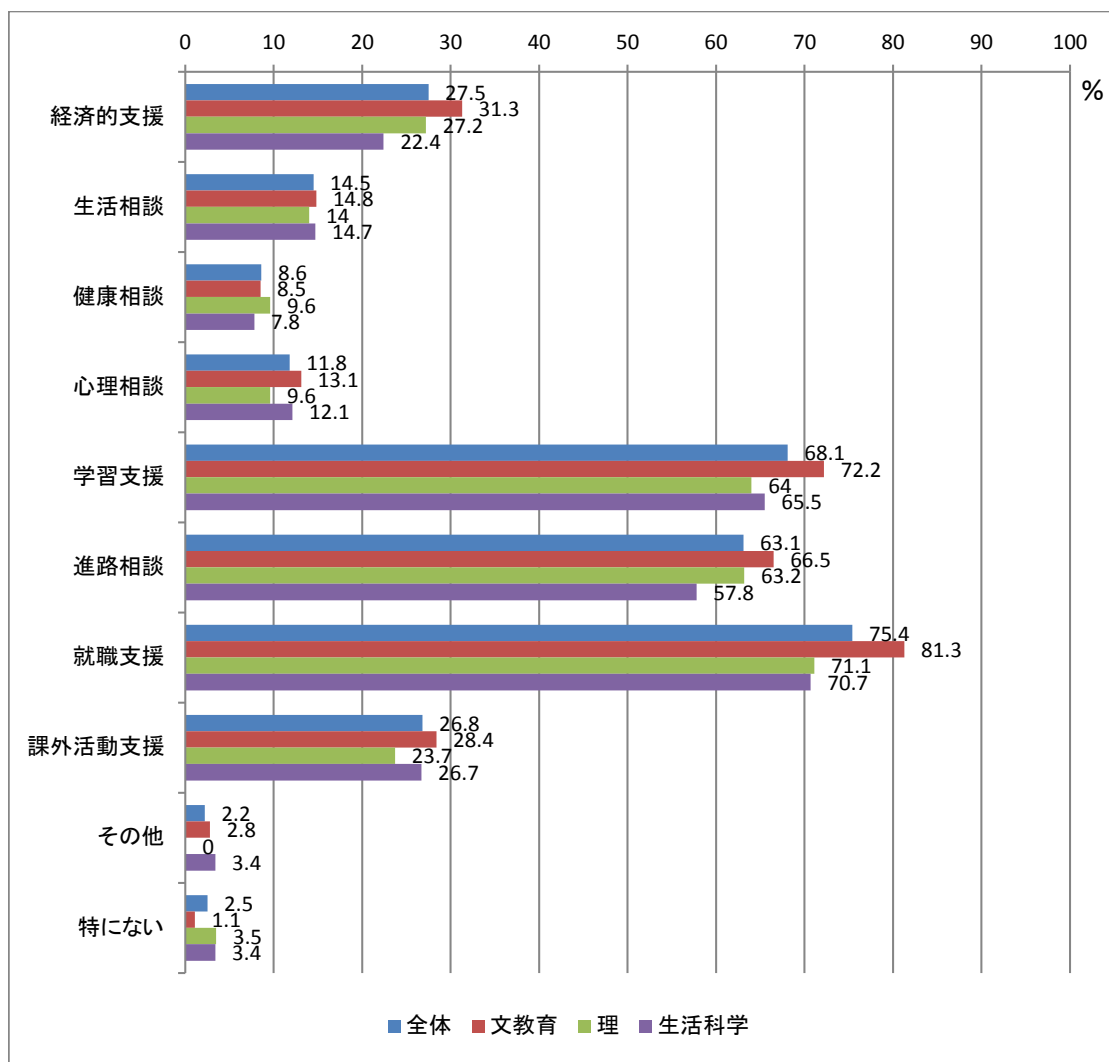


Figure9 新入生：本学の学生支援活動で期待するもの（複数回答可）

（お茶の水女子大学 2012,P47-48）。

本学の在学生を対象とした「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」では、本学の学生支援活動で足りないところとして、「就職支援」や「進路相談」の高さが示されている（お茶の水女子大学 2011a,P36-37）。新入生やその保護者からの期待からみても、在学生の不満からみても、卒業後の進路に関する支援には特に力を入れていくことが求められていることは明らかである。

#### 経済的・生活支援の希望

最後に、新入生保護者調査に基づき、経済的・生活支援の希望に焦点をあて、家庭の経済力とからめながら示していく。本学が目指す統合型学生支援のあり方や方向性を検討する上での示唆を得るために、また Figure9 および Figure10 から、これらの支援への

期待が少なからずみられることから、その背景に目を向けることは重要な視点であろう。

#### 奨学金の希望

まずは、経済的支援として「奨学金」に焦点をあて、その希望状況について、「受給経験」「制度の認知」「世帯年収」との関連からみていく。

過去に奨学金を受給した経験がある者となない者とで、希望の有無に違いがあるかを調べた結果が Figure11 である。

その結果、全体では、43.5% の保護者が大学奨学金を希望していることがわかった。また、これまでに奨学金を受給した経験がある場合は、奨学金を希望する割合が高く、これまでに奨学金を受給した経験がない場合は、奨学金を希望する割合が低いことがわかった。この傾向は、前年度調査でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2012,P.52）。これらのことから、



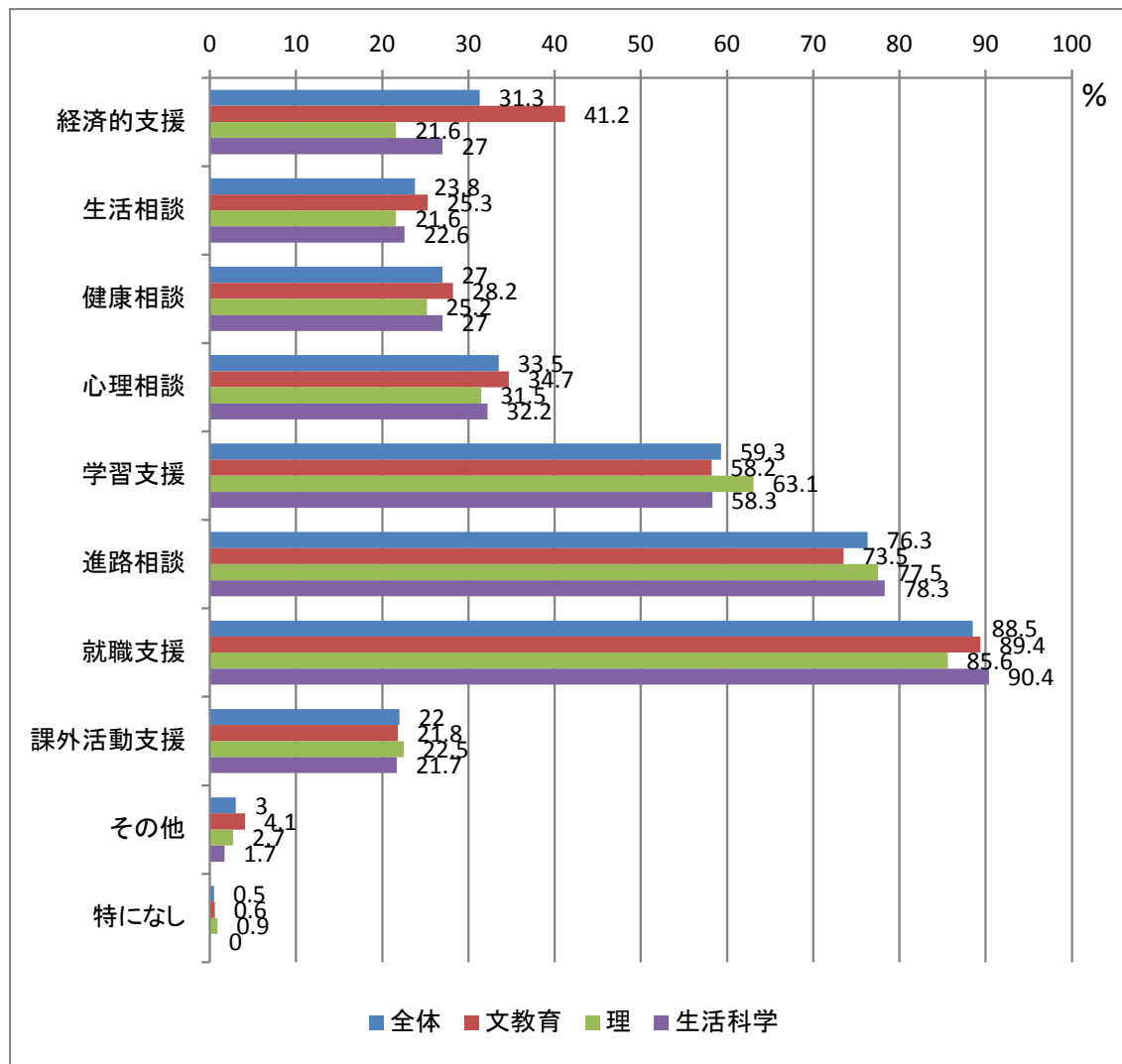


Figure10 保護者：本学の学生支援活動で期待するもの（複数回答可）

高校までの奨学金受給経験は、大学入学後の奨学金の希望の有無に関係しているものと考えられる。今年度はこれまでに奨学金を受給した経験のある者で、大学奨学金を希望する者の割合は、昨年度が 80.6% だったのに対して、今年度は 65.6% という結果が示された。奨学金希望者の減少については、経年の調査で推移を調べる必要である。

続いて、奨学金の認知と希望の有無に関連があるかを調べた結果が Figure12 である。

その結果、奨学金について認知している場合は、奨学金を希望する割合が高く、奨学金について認知していない場合は、奨学金を希望する割合が低いことがわかった。この傾向は前年度調査でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2012, P52）。「奨学金について認知していないが、奨学金を希望する」という割合が、昨年度 12.7% だったのに対して、今年度は 20.8% であるため、本学での奨学金についての情報をより周知

する必要があると考えられる。

続いて、世帯年収と奨学金の希望の有無に関連があるかを調べた結果が Figure13 である。

その結果、前年度調査と同様に、世帯年収が低い場合は、奨学金を希望する割合が高く、世帯年収が高い場合は、奨学金を希望する割合が低いことがわかった。

#### 学生寮への入寮希望

さらに、生活支援として「学生寮」に焦点をあて、入寮希望状況について、「奨学金の受給経験」「世帯年収」「入学後の暮らし向き」との関連からみていく。

新入生の学生寮の認知と、奨学金の受給経験の有無との関連を調べた結果が Figure14 である。

その結果、全体では 76.4% の新入生が大学奨学金について認知していることがわかった。昨年度と比べて、全体の割合では大きな変化はみられないものの、

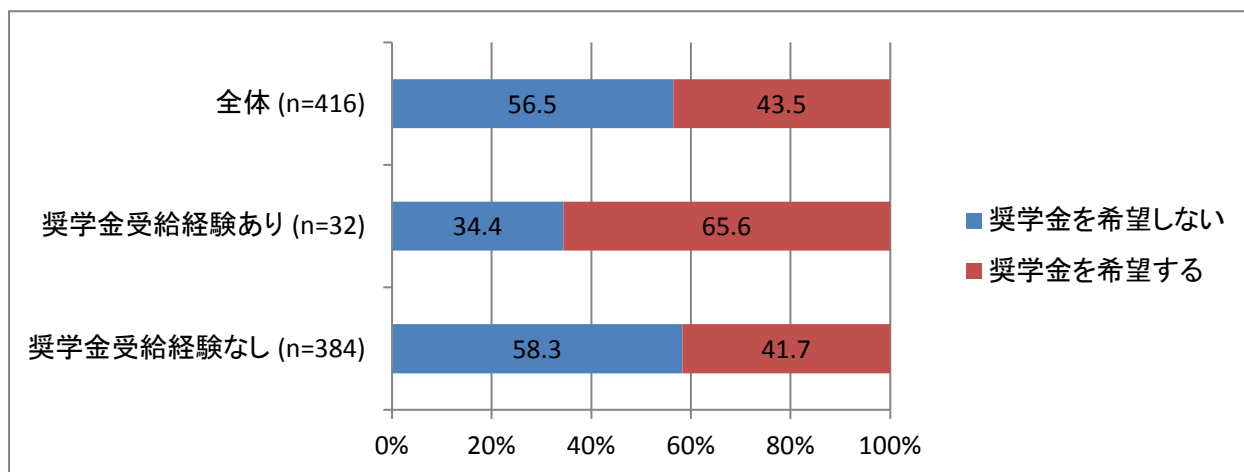


Figure11 保護者：奨学金受給経験と奨学金の希望

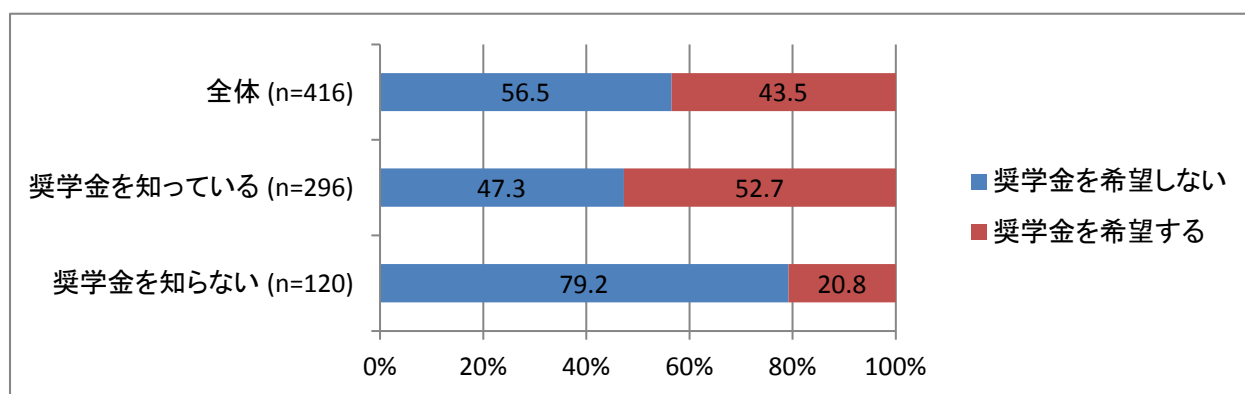


Figure12 保護者：奨学金の認知と奨学金の希望

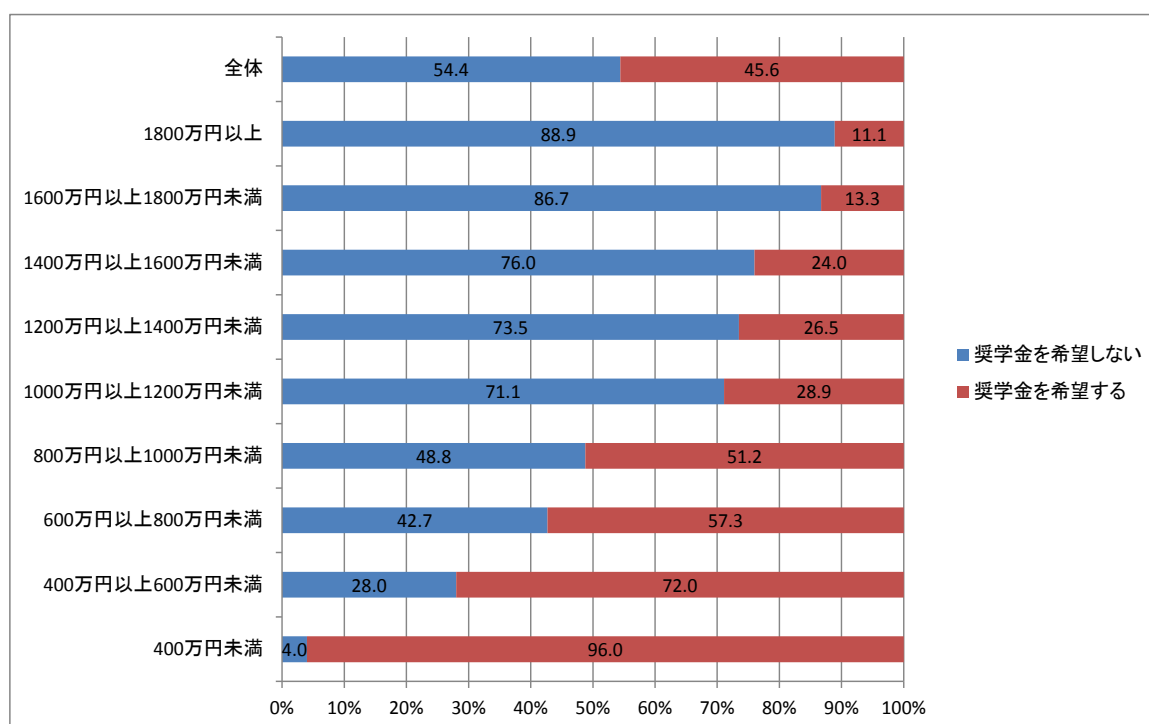


Figure13 保護者：世帯年収と奨学金の希望

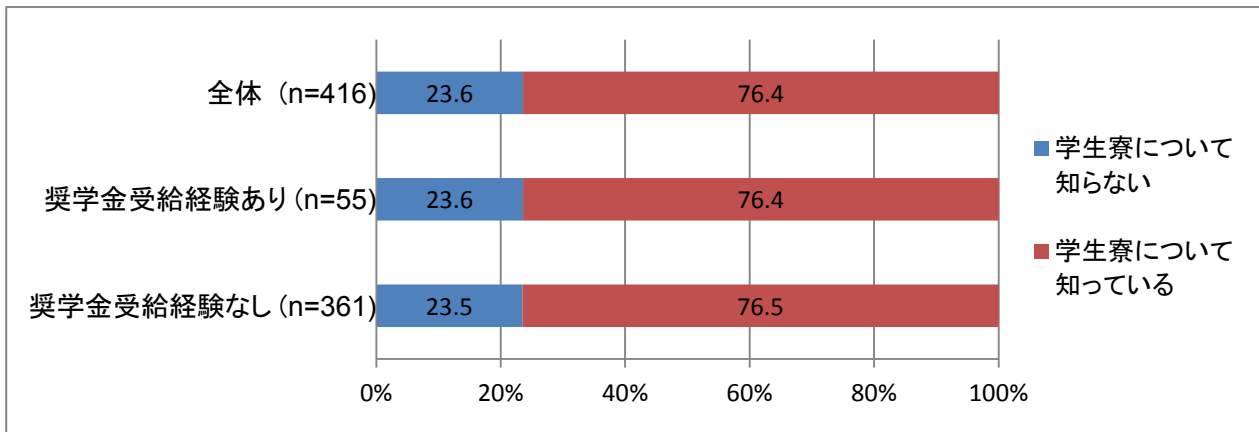


Figure14 新入生：学生寮の認知と奨学金の受給経験

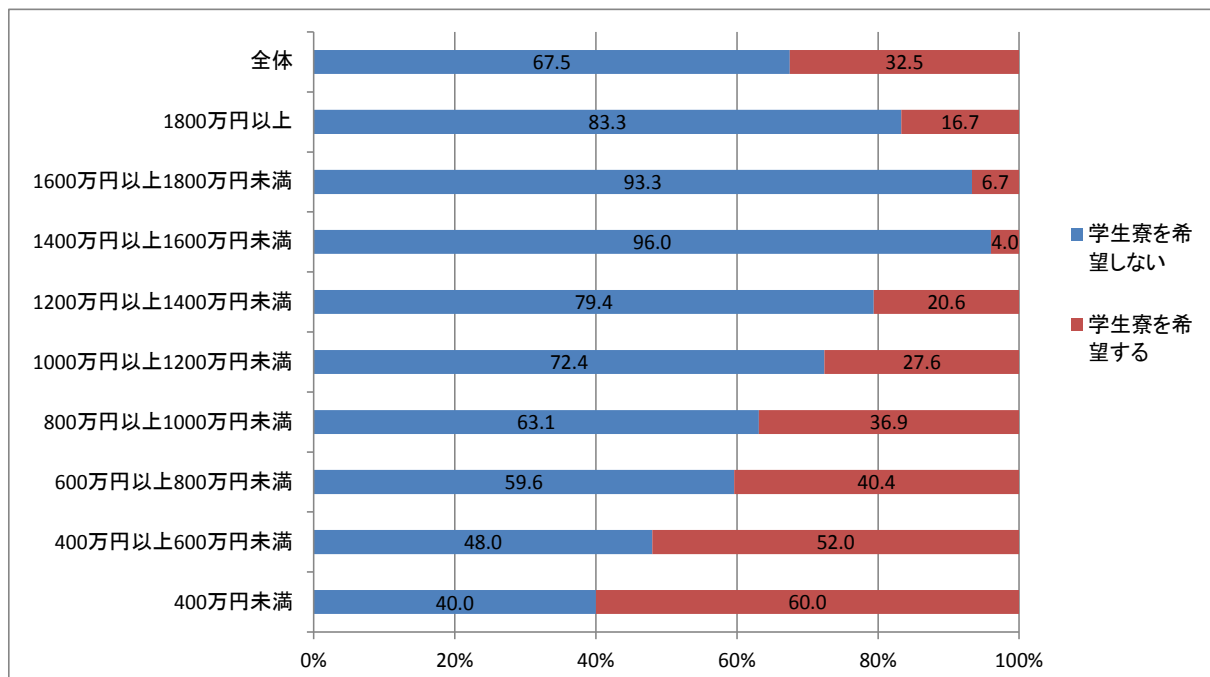


Figure15 保護者：世帯年収と学生寮への入寮希望

奨学金の受給経験のある者の中で、学生寮を知らない割合が、昨年度の 9.7% から今年度は 23.6% に増えていた。学生寮は主に自宅から通学が難しい学生が希望するため、奨学金受給経験があっても、学生寮を希望しないという学生もいる。しかし、学生寮を必要とする学生には、情報を周知する必要があると考えられる。

続いて、世帯年収と学生寮への入寮の希望の関連を調べた結果が Figure15 である。

その結果、世帯年収が少ない場合は、学生寮を希望する割合が高く、世帯年収が多い場合は、学生寮を希望する割合が低いことがわかった。昨年度は年収の多い少ないに関わらず、学生寮への入寮を希望していることが示されていたが、今年度は世帯年収が少なくな

るにつれて、学生寮を希望する割合が増えているという結果となった。また、家計支持者の年収との関連についても、世帯年収と同様の結果となった。

最後に、入学後の暮らし向きと学生寮の希望の有無に関連を調べた結果が Figure16 である。

その結果、入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている場合は、学生寮への入寮を希望する割合が高く、ゆとりがあると感じている場合は、学生寮への入寮を希望する割合が低いことがわかった。昨年度は入学後の暮らし向きの余裕のあるなしに関わらず、入寮を希望する者が多かったが、今年度は「あまりゆとりがない」と回答した 33.7%、「ゆとりがない」と回答した 69.2% が、学生寮を希望していることがわかった。

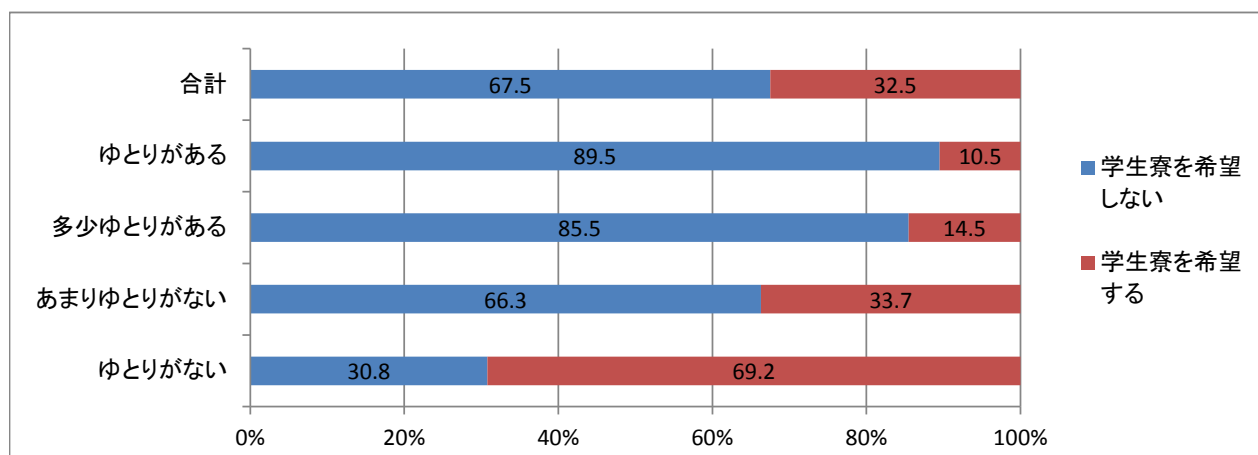


Figure16 保護者：入学後の暮らし向きと学生寮への入寮希望

## おわりに

## 参考文献

本学の平成 25 年度の新入生は、前年度、前々年度同様、都内を中心に「実家」「アパート・マンション」「学生寮」から通学を予定する者が多く、アパートやマンションの家賃は「毎月 5～9 万円台」が一般的であることがわかった。また、入学後の 1 年で頑張りたいのは、「大学の授業」「友達との交流」「クラブ・サークル活動」であり、新入生は「授業や単位」「就職や将来」「人間関係」に、保護者は「就職や将来」「健康面」「人間関係」に不安を抱えていることもわかった。この結果もこれまでの調査と同様である。

こうした不安を反映し、新入生、保護者ともに、大学には卒業後の進路に関する支援活動を特に期待していることも、これまでの調査と同様に明らかになった。それは本学に在学する学部生が「足りない」と感じていた支援活動でもあり、近年、学生・キャリア支援センターを中心に、初年次からのキャリア教育や就職支援に力を入れているところである。その成果や課題について、学生目線で検証してみることも今後は必要であろう。

前年度、学生寮は経済的理由から学生寮を希望するとは限らないことが示唆されていたが、今年度は関連が見られなかった。世帯年収・家計支持者の年収が低い者、入学後の暮らし向きにゆとりのない者が学生寮を希望することわかった。しかし、自宅が遠方にある者と、通学範囲に在住している者とは、奨学金の希望、学生寮の希望の傾向は必ずしも一致しないと考えられる。支援が必要な学生の傾向を把握することで、そのニーズに応える形での奨学金制度の設計と学生寮の提供が行われるのが望ましいと考えられる。

お茶の水女子大学 (2011a) 「平成 22 年度 お茶大生の学習環境と生活意識に関する調査」

お茶の水女子大学 (2011b) 「平成 23 年度 新入生の生活に関する調査」

お茶の水女子大学 (2012) 「平成 24 年度 新入生の生活に関する調査」

お茶の水女子大学 (2013) 「平成 25 年度 新入生の生活に関する調査」

全国大学生生活協同組合連合会 (2010) 「2010 年度 保護者に聞く新入生調査報告書」

全国大学生生活協同組合連合会 (2012) 「CAMPUS LIFE DATA2011 第 47 回学生の消費生活に関する実態調査」

※ 本調査の報告書は学生・キャリア支援チームで冊子を手に入れるほか、TeaPot からも PDF 形式でダウンロードいただけます

<http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/handle/10083/53912>

※ 報告書の一部は、学生・キャリア支援センターホームページ内「調査結果のご報告」にて、「Research Report」として紹介しております。

[http://www.ocha.ac.jp/gss/support\\_center/research/index.html](http://www.ocha.ac.jp/gss/support_center/research/index.html)

2014 年 2 月 24 日 受稿